

(印刷断続版)

信用情報

総合版(号外)
購読料年間 36,750円(税込)

レーダー

棲み分けの崩壊

年初にいただいた「子」の色紙に「ねずみ」について次のような文章が添えられていた。

白ねずみは大黒天のお供をし、富の象徴とされてきた。とりわけ江戸の頃、商家では忠誠を尽くし、富を増やす働き者の番頭さんのことを「白ねずみ」と呼んだと伝えられる。十二支の中でも子年は事の始まりをあらわし、縁起のよい一年といわれてきた。大黒天の遣いである白ねずみが新しき年に財運をもたらしますように…と。

ねずみは富貴を招くとともに繁殖力が旺盛。これを物語るものとして「ねずみ算」がある。ある動物学者によると、家ねずみの平均寿命は3年3カ月。生後2カ月で成熟し初産でも1回に6~10匹生む。1匹のねずみが毎回8匹の子ねずみを生み、生後6カ月で孫ねずみが生まれるとすると、一つがいの家ねずみが3年後には25万3762匹になるという計算。

しかし、このように増えたら日本中、ねずみだらけになるはずだが、実際にはそんなに増えない。ねずみの世界にも食べ物が無限にあるわけではなく、病気にもかかる。そして、ねずみ算通りに増えない要因は棲

み分け意識が強いためという。

家ねずみにはクマねずみとドブねずみがいるが、同じ家には棲まない。同じ種類同士でも他のねずみを寄せ付けない。外に追い出されたねずみは長生きできず、ねずみ算通りにはいかないものである、と動物学者は指摘する。

棲み分けによって、ある種の秩序が保たれる。かつて産業界でもそうした構造はみられた。たとえば小売市場では、専門店、百貨店、スーパー、ディスカウント店、それぞれが店舗戦略や販売方法、価格などの違いを出すことで棲み分けがなされ、消費者も買い分ける。メーカー、問屋、小売という流通内部もそうした棲み分けで秩序が保れていた。

しかし最近、小売店は他者の陣地を侵食する販売戦略で顧客を奪い合い、問屋の消費者直販など流通破壊も目立ってきている。09年には業法改正でスーパーでも大衆薬が販売できるようになるなど、扱い商品の陣取り合戦も熾烈化。ねずみは富の象徴だが、産業界は棲み分けの崩壊で、勝ち組、負け組み、富の偏在がさらに進むことになりそうである。

今日の記事

新春特別寄稿() ……2・3	(大阪) 富士建企画㈱ ……6
(東京) 関新風舎 ……4	(兵庫) ソウゴ商事㈱ ……6
(奈良) 関マインズ ……4	(大阪) ウッディアイ㈱ ……7
(京都) 石井化薬㈱ ……5	(大阪) 関小山製材所 ……7
(京都) 旭住設機器㈱ ……5	(愛知) 関東洋セラテック ……8

信用交換所京都本社

〒604-0002 京都市中京区室町通夷川上ル鏡屋町25
WWW.joho-kyoto.or.jp/~ce-kyoto

TEL (075) 221-7281
FAX (075) 222-0036